

京都府オリンピック・パラリンピック教育 推進事業の概要

Vol.4

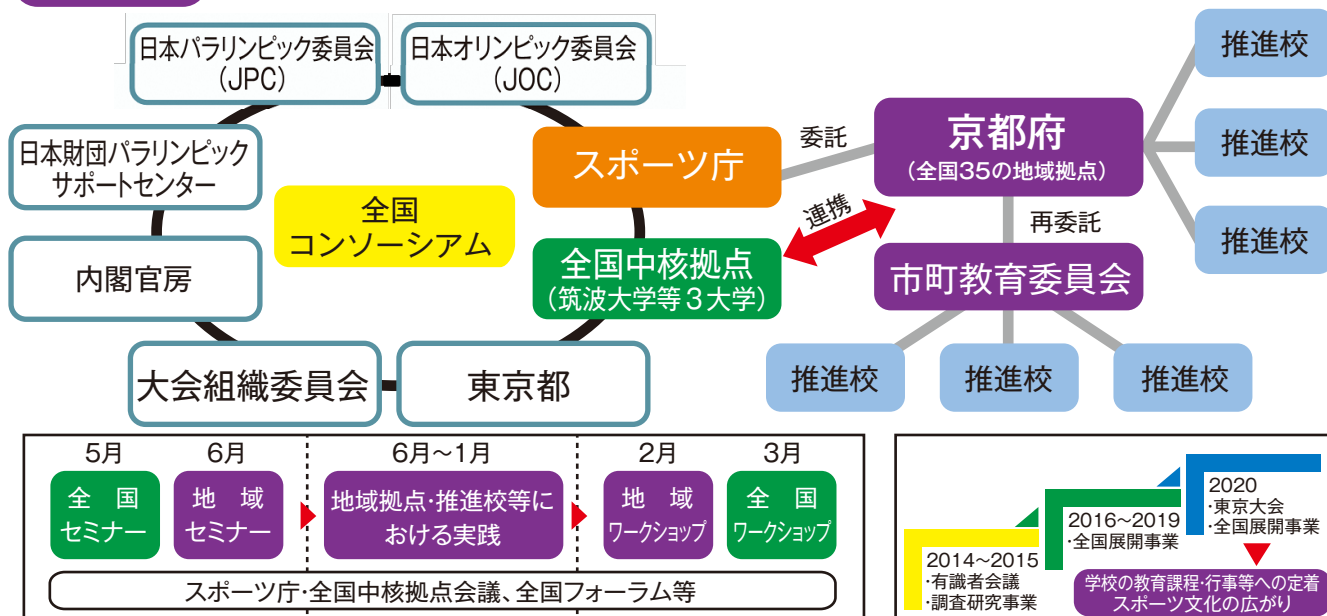


スポーツ庁委託
オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業

 京都府教育委員会

平成30年度、京都府教育委員会はスポーツ庁からの委託を受け、平成27年度からの取組で得た知見をもとに、より発展したオリンピック・パラリンピック教育の普及・推進に取り組みました。

事業の枠組



スポーツの価値

- ◆スポーツは、精神的な充足感や楽しさ・喜びをもたらし、人々が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む基盤である。
- ◆スポーツには、自己充実・自己変革を促す力、社会や世界を変える大きな力がある。

オリンピック・パラリンピック教育の理念

オリンピックの価値

〈国際オリンピック委員会 (IOC) 〉

1. 「Excellence (卓越)」
2. 「Friendship (友情)」
3. 「Respect (敬意・尊重)」

パラリンピックの価値

〈国際パラリンピック委員会 (IPC) 〉

1. 「Courage (勇気)」
2. 「Determination (決意)」
3. 「Equality (平等)」
4. 「Inspiration (インスピレーション・鼓舞)」

オリンピック・パラリンピック教育の意義

スポーツの価値の再認識を通じ、国際的な視野を持って世界の平和に活躍できる人材を育成する

オリンピック・パラリンピック教育に関する有識者会議より

府内全域への展開状況



パラリンピアンによる講演（高校）



オリンピックによる実技指導（小学校）



メダリストとの交流（小学校）



ボッチャ体験学習（特別支援学校）



フロアバレーボールでの交流（中学校・特別支援学校）



ソフトボール部の交流（高校・特別支援学校）

平成30年度 推進校（52校）

◆小学校（7校）

城陽市立古川小学校
京田辺市立薪小学校
木津川市立相楽小学校
木津川市立木津川台小学校
木津川市立上狛小学校
井手町立井手小学校
井手町立多賀小学校

◆高等学校（23校）

京都府立鴨沂高等学校
京都府立洛北高等学校
京都府立鳥羽高等学校
京都府立北嵯峨高等学校
京都府立北桑田高等学校
京都府立東稜高等学校
京都府立洛水高等学校
京都府立京都すばる高等学校
京都府立乙訓高等学校
京都府立西乙訓高等学校
京都府立莒道高等学校
京都府立城陽高等学校
京都府立西城陽高等学校
京都府立京都八幡高等学校
京都府立久御山高等学校
京都府立田辺高等学校
京都府立南丹高等学校
京都府立須知高等学校
京都府立綾部高等学校
京都府立西舞鶴高等学校
京都府立加悦谷高等学校
京都府立網野高等学校
京都府立久美浜高等学校

◆中学校（11校）

大山崎町立大山崎中学校
木津川市立山城中学校
井手町立泉ヶ丘中学校
南丹市立園部中学校
京丹波町立蒲生野中学校
京丹波町立瑞穂中学校
京丹波町立和知中学校
綾部市立綾部中学校
舞鶴市立白糸中学校
宮津市立宮津中学校
宮津市立栗田中学校

◆特別支援学校（11校）

京都府立盲学校
京都府立聾学校
京都府立向日が丘支援学校
京都府立宇治支援学校
京都府立城陽支援学校
京都府立八幡支援学校
京都府立南山城支援学校
京都府立丹波支援学校
京都府立中丹支援学校
京都府立舞鶴支援学校
京都府立与謝の海支援学校



※●黄字は平成27年度からの推進校
●青字は平成28年度からの推進校
●黒字は平成29年度からの推進校
●緑字は平成30年度からの推進校
（◆印の2校は再指定、他は新規指定）



オリンピック・パラリンピックコーナー（小学校）



オリンピック・パラリンピック給食（小学校）



海外の高校生との文化交流（高校）



保育園児体操教室（高校）



小学生スポーツ教室（特別支援学校高等部）



シニア体操教室（高校）

平成30年度の主な取組

スポーツへの誘い



オリンピック・パラリンピックからの学びを発信

- ・調べ学習等を実施。プレゼンテーションや壁新聞の作成等により、学びで気付いたオリンピック・パラリンピックの価値等を児童生徒間で共有。
- ・パラリンピックをテーマに英語でワークショップ。
- ・IPC公認教材「I'm POSSIBLE」等を効果的に活用することで、児童生徒の興味・関心が高まり、深い学びを実現。
- ・学校のホームページや学校だよりで保護者や地域にも発信。

【推進校】 薪小学校、木津川台小学校、上狛小学校、園部中学校、鳥羽高校、北嵯峨高校、東稜高校、西城陽高校、南丹高校

オリンピック・パラリンピアンをはじめとするトップアスリート等との出会い



- ・「さあやってみようというスポーツどころを育成」、「努力することの大切さを学び、そこから得られる自己肯定感を醸成」すること等がねらい。
- ・児童生徒を通じた家庭でのリバースエデュケーション効果も期待。

アスリート等からの学び《生徒の感想文等より》

「どんなことをやるかではなくどんな思いでやるかが大切」（飯塚翔太氏）、「チャンスに気付ける人になる」（上山友裕氏）、「あきらめたことをあきらめない」（辰己博実氏）、「他を識（し）り、己を知る」（中嶋明子氏）、「大切なことは勝つことではなく夢を持つこと」（藤田信之氏）、「一日一回、感動しよう」（山田秋親氏）、「大事なことは『やれる』と思うこと」（山本篤氏）

【推進校】 古川小学校、薪小学校、相楽小学校、木津川台小学校、井手小学校、多賀小学校、大山崎中学校、山城中学校、泉ヶ丘中学校、園部中学校、蒲生野中学校、瑞穂中学校、綾部中学校、白糸中学校、宮津中学校、栗田中学校、洛北高校、鳥羽高校、北桑田高校、洛水高校、西乙訓高校、菟道高校、城陽高校、西城陽高校、久御山高校、田辺高校、綾部高校、久美浜高校



特別支援学校におけるスポーツへの誘い・自己肯定感の醸成

- ・これまでのオリンピック・パラリンピック教育の成果を踏まえ、スポーツに触れる機会や競技力を高める機会をより積極的に創出。
- ・各種障害者スポーツ大会や地域のスポーツ大会に出場。地域の大学ともスポーツ交流。
- ・特別支援学校生が地域の小学校でボッチャ等のスポーツ指導を実施。
- ・練習成果の発揮等による自己肯定感の醸成や地域社会への参画意識の高まりがみられた。

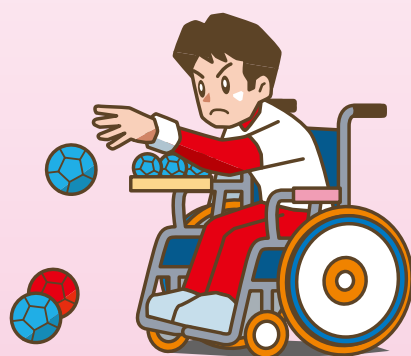
【推進校】 盲学校、聾学校、向日が丘支援学校、宇治支援学校、城陽支援学校、八幡支援学校、南山城支援学校、丹波支援学校、中丹支援学校、舞鶴支援学校、与謝の海支援学校



特別支援学校ボッチャ交流大会

特別支援学校の中等部・高等部の生徒を中心に、ボッチャ交流大会を開催。「スポーツへの意欲を高めること」、「ボッチャを通して交流を深めること」、「障害者スポーツの普及に向けて自ら活動する力を育てること」等をねらい。5校17チームが参加。他校を応援したり、他校生徒と交流する姿が随所にみられた。

【推進校】 向日が丘支援学校、宇治支援学校、八幡支援学校、南山城支援学校、丹波支援学校



共生社会の形成



パラリンピック競技等の体験からの学び

- ・小学校、中学校、高校において、パラリンピック種目をはじめとしたアダプテッド・スポーツ等、障害の有無等にかかわらず誰もが共に楽しめる多様な競技に挑戦。
- ・多様な競技に親しむことで、「スポーツ志向やパラリンピックへの関心を高めること」、「共生社会の在り方を考えること」等がねらい。

主な体験競技

車いすバスケットボール、ゴールボール、ころがし卓球、シッティングバレーボール、スローイングビンゴ、卓球バレー、ドッジビー、パラパワーリフティング、フライングディスク、ブラインドサッカー、フロアバレーボール、ペガールボール、ベタンク、ボッチャ

【推進校】古川小学校、木津川台小学校、上狛小学校、井手小学校、大山崎中学校、山城中学校、蒲生野中学校、綾部中学校、宮津中学校、栗田中学校、鳥羽高校、京都すばる高校、西乙訓高校、西城陽高校、京都八幡高校、綾部高校、西舞鶴高校、加悦谷高校



小中高生と特別支援学校生のスポーツでのつながり

- ・高校生と特別支援学校高等部生でスタートした交流が、より広がり、より充実。
- ・高校生と特別支援学校小学部生、小学生と特別支援学校高等部生のように、年代の異なる交流もみられた。
- ・パラリンピック競技であるボッチャ、卓球のほか、フロアバレーボール、サッカー、ソフトボール、フライングディスク、ドッジビー、卓球バレー、ころがし卓球等、様々な競技で交流。
- ・部活動交流では、これまでの交流をきっかけにより多くの部活動で交流がみられた。

【推進校】井手小学校、北嵯峨高校、乙訓高校、西乙訓高校、菟道高校、京都八幡高校、綾部高校、西舞鶴高校、加悦谷高校、盲学校、聾学校、向日が丘支援学校、宇治支援学校、八幡支援学校、南山城支援学校、丹波支援学校、中丹支援学校、舞鶴支援学校、与謝の海支援学校



世代を越えたスポーツでのつながり

- ・高校生が高齢者に運動指導を行ってきた「体操教室」をより広い世代に拡大。保育園児、小学生、中学生、その保護者にも指導。幅広い世代が一堂に会し、体操でつながる場を設定。スポーツによる地域創生の可能性を考えた。
- ・高校生が地域の小学校を訪問してスポーツ指導。教える立場となり自分の持つ知識や思いを伝えるなかで、改めてスポーツの楽しさや奥深さに気付いた。
- ・取組を継続することで、次回の交流をよりよいものにしようとする高校生の意識の高まりがみられた。交流した高齢者等も継続を期待。

【推進校】久御山高校、南丹高校、網野高校



府立学校交流ソフトボール大会

これまでの各校間の交流をきっかけに高校3校、特別支援学校3校が集まり、交流ソフトボール大会を開催。高校と特別支援学校の生徒混成のチームをつくり、それぞれ対戦。また、試合後にはホームラン競争を楽しんだ。互いに声をかけ助け合う姿、好プレーをハイタッチで讃える姿が随所にみられた。

【推進校】北嵯峨高校、菟道高校、京都八幡高校、聾学校、宇治支援学校、八幡支援学校



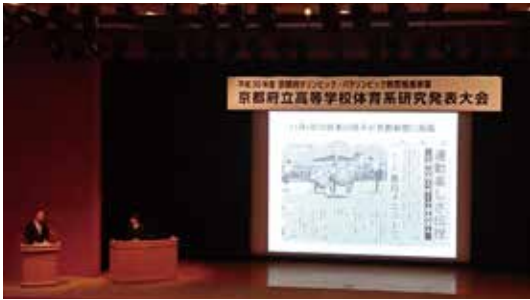
スポーツへの関心向上・スポーツボランティアへの参画 ～体育系設置高校を中心に～



アスリート等による講演や実技指導

- ・体育系設置高校では、競技への関心を高め、競技力の向上を図るとともに、スポーツを通してグローバルな活躍ができる人材を育成すること等をねらいとして、トップアスリートによる講演や実技指導を実施。
- ・体育系設置高校6校が一堂に会した講演会では、山田拓朗氏を講師に招き、パラリンピックの価値について考えた。

【推進校】 洛北高校、鳥羽高校、乙訓高校、西城陽高校、久御山高校、綾部高校



体育系設置高校による研究発表大会

- ・体育系設置高校の代表による運動やスポーツをテーマとした研究発表。自ら設定したテーマに沿って、実験や調査を繰り返し、考察を深めた成果を発表。
- ・自らのスポーツ経験を踏まえ、多様な視点から競技力の向上やスポーツの在り方等について考えた。
- ・会場には、各校がオリンピック・パラリンピック教育における取組のまとめをパネル展示し、成果を共有。

【推進校】 洛北高校、鳥羽高校、乙訓高校、西城陽高校、久御山高校、綾部高校



スポーツを「支える」視点からの学び

- ・日本オリンピック委員会マーケティング担当者を招き講演を実施。スポーツが個人や社会にもたらす効果について考えた。
- ・高校生が地域の小学校でスポーツ指導を行うとともに運動会の運営をサポート。スポーツを「支える」価値や意義を体験を通して考えた。
- ・地域のスポーツ大会にボランティアとして参画。生徒の自己有用感や自己肯定感の醸成にもつながった。

【推進校】 鳥羽高校、乙訓高校、久御山高校、綾部高校

国際理解



国際交流や文化の発信の在り方についての学び

- ・「より良い国際交流、文化発信、ホスピタリティの在り方について考えること」等がねらい。
- ・高校生が自校とその周辺について、日本語・英語のガイドマップを作成。留学生等をガイド。
- ・小学生が「イングリッシュアドベンチャー」として海外からの旅行客にインタビュー。
- ・留学生や海外高校生との交流から、異文化を尊重し受容することの大切さを体験的に学んだ。

【推進校】 相楽小学校、井手小学校、多賀小学校、泉ヶ丘中学校、鴨沂高校、西乙訓高校



ホストタウンの中高生の学び

- ・「大会へ向けた機運醸成」、「異文化を理解し、日本を訪れる人々におもてなしの心を持って接することができる人材を育てること」等がねらい。
- ・相手国の生徒とスポーツ等により交流。
- ・高校生が地域の小学生、中学生、保護者にホストタウン関係競技を指導。ホストタウンとしての機運醸成に貢献。
- ・「グローバルマナーとおもてなしの心」をテーマとした講演を実施。
- ・スポーツ大会のボランティア活動に参画。「おもてなし」について体験を通して考えた。

【推進校】 和知中学校、須知高校、久美浜高校

京都の伝統や文化の発信

オリンピック・パラリンピック讃歌

現代短歌の創作を通した、京都ならではのスポーツと文化の融合



オリンピック・パラリンピックはスポーツの祭典であるとともに文化の祭典でもある。2020年に開催される東京大会の成功に向けた気運を醸成し、京都から、スポーツと文化を融合させた取組を全国に発信するため、これまでに引き続き、スポーツを「する」「観る」「支える」の観点から表現した短歌を広く京都府内の高校・特別支援学校（高等部）の生徒から募集した。

今年度は、3,260名、5,590首の応募があり、細胞生物学研究者で、京都大学特任教授でもある、歌人の永田紅氏に選考していただいた。

最優秀賞（一首）

グラウンドで大きく息を吐く君の白い息だけ切り取る二月

洛北高校 阪口 歩

優秀賞（五首）

人間て美しいなと気付く夏跳んで走って全力の君

北桑田高校 石田 唯

人のないグラウンドをただ走るのは走り行くのは君と影法師

南陽高校 魚島 三平

今だけは僕が世界をリードする視線あつまる僕の立つ位置

嵯峨野高校 塚本 嵐士

たかが部活そう思ってたはずなのに曇天に降るひとすじの雨

洛北高校 水谷 壮寿

突然に前を横ぎる赤とんぼ我にかえって知った歓声

鴨沂高校 山吹 月乃

佳作（十四首）

まだ4年選手にとってはたった4年観るとやるとは時計がちがう
的の前あなたでさえも雑音にそれでも私は矢を射ろう

西城陽高校 伊東 竜希
鴨沂高校 岡田 大樹

「試合は練習のように」と言うけれどここにしかない声が聞こえる
保健室窓から見てるグラウンドあきらめないし泣きたくもない

南陽高校 岡本 惇平
京都八幡高校 河原 りょう

家族達僕の頑張り見てくれる僕のやる気が漲るばかり

八幡支援学校 杉澤 誓歩

打ち上げた球を目で追い吹く音は消えてしまわず遣（のこ）ってほしい

南陽高校 豊中 琴音

振りぬいた右手に残るいい感じナイスボールの声援響く

鳥羽高校 西田 木の実

眠れない何百匹の羊の群よみがえってくるあの時のプレー

亀岡高校 畑山 輝太

遠くても一目でわかる君の事教えたフォームいつも丁寧

南陽高校 馬場 京助

水泳の水のしぶきがかかるほど近くで応援できたらいいな

京都西山高校 前田 桃子

そんなにも面白いのかスポーツは面白いよと君は笑う

洛水高校 三田村 千尋

情けない観ちゃあおれぬと言いながら一番祈っていたのがアイツ

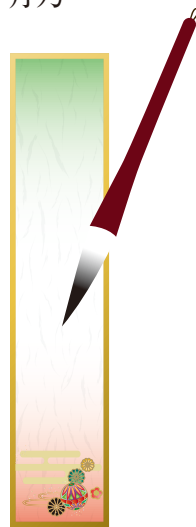
洛北高校 森田 拳

その声は白いテープのその先へ背をおすように私に届く

洛北高校 柳澤 周蔵

それぞれのルーティーンがあるスタート前それを見るのもまた楽しみ

北嵯峨高校 山崎 茜子 ※敬称略(五十音順)



◆ 講師として招いたトップアスリート、スポーツ指導者等 ※敬称略 ◆

赤倉幸恵（シットイングバレーボール 日本代表）、飯塚翔太（陸上競技 オリンピアン）、石黒由美子（アーティスティックスイミング オリンピアン）、井内菜津美（陸上競技 アジアパラ競技大会日本代表）、上山友裕（アーチェリー パラリンピアン）、江上いずみ（筑波大学大学院客員教授）、隠地勝宏（車いすバスケットボール）、片岡正教（日本ボッチャ協会理事）、寒川進（陸上競技 パラリンピアン）、木谷真紀子（同志社大学准教授）、木村祐子（帝塚山大学准教授）、小林幸一郎（パラクライミング 日本代表）、小林春彦（作家・コラムニスト）、阪根泰子（車いすバスケットボール パラリンピアン）、櫻井杏理（車いすフェンシング 日本代表）、佐藤光浩（陸上競技 オリンピアン）、神保康広（車いすバスケットボール パラリンピアン）、関口久志（京都教育大学教授）、田上健一（プロ野球）、辰巳博実（パラカヌー 日本代表）、富田圭造（シットイングバレーボール 指導者）、永尾嘉章（陸上競技 パラリンピアン）、中嶋明子（パラカヌー 日本代表）、新居平康（ゴールボール 指導者・国際審判員）、根本慎志（車いすバスケットボール パラリンピアン）、比護信子（陸上競技 日本代表）、藤田信之（陸上競技 指導者）、堀井聡太（デフサッカー 日本代表）、堀越信司（陸上競技パラリンピアン）、森卓也（陸上競技 アジアパラ競技大会日本代表）、森田美千代（京都障害者スポーツ振興会副会長）、八橋龍二（車いすバスケットボール）、山田秋親（野球 オリンピアン）、山田拓朗（水泳競技 パラリンピアン）、山本恵理（パラパワーリフティング 日本代表）、山本英嗣（車いすバスケットボール）、山本篤（陸上競技・スノーボード パラリンピアン）、脇本昌樹（日本オリンピック委員会マーケティング担当）

京都府における オリンピック・パラリンピック教育の推進

公開フォーラムの開催や推進校の取組紹介等で広く府民に発信する等、広報活動を推進

2021

オリンピック・パラリンピック教育の推進において、「スポーツの力」を実感させるとともに、一人一人に豊かな「スポーツどころ」を育み、スポーツ文化の広がりにつなげる。

2020

- 京都府の取組を全国のオリンピック・パラリンピック・ムーブメントへ繋げる。
- 2020年以降のスポーツ文化と共生社会形成のレガシーを目指す。

【Ⅰ】

- スポーツへの誘い
- 自己肯定感の醸成

【Ⅱ】

- 障害者や高齢者への理解
- 共生社会の形成

【Ⅲ】

- スポーツへの関心や競技力向上
- スポーツボランティアへの参画

【Ⅳ】

- オリンピック・パラリンピックに向けた京都の伝統や文化等の発信

【Ⅴ】

- オリンピック、パラリンピックを通じた国際理解教育の推進

2019

オリンピック・パラリンピアンとの交流
スポーツへの参画

高校運動部活動生徒等と特別支援学校生や地域の高齢者とのスポーツ交流

体育系設置高校を中心とした専門科目等を通じた関連学習

オリンピック・パラリンピック讃歌によるスポーツと文化の融合

異文化理解、国際交流を通じた「おもてなしの心」の醸成

- ・ 事業概要のまとめ・報告書作成（3月）
- ・ 事後ワークショップ（2月）
- ・ オリンピック・パラリンピック讃歌（7月～募集・2月表彰）
- ・ 推進校教員セミナー・事業開始（6月～）
- ・ 推進校の指定（5月～）
- ・ 推進校の公募（4月～）

2018

スポーツ庁の委託により「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」を実施

2017

スポーツ庁の委託により「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」を実施

2016

筑波大学の委託により「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」を実施

2015

筑波大学の委託により「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント調査研究事業」を実施